

令和6年2月5日

令和5年度 学校教育自己診断について

○令和5年度における質問項目の選定

昨年度と変更なし。

○アンケートの回答形式

Google フォームで実施し、選択肢は以下の4種類とした。

A よくあてはまる、B ややあてはまる、C あまりあてはまらない、D まったくあてはまらない

生徒・教職員はすべての回答を必答にし、保護者は判断に迷う項目については未回答も可能とした。

○アンケートの実施期間

保護者・教職員：12月18日～12月28日（1月9日に再度案内し、12日まで回答可能とした。）

生徒：12月19日の HR

○回答数

保護者：310（全体の34%）

生徒：862（全体の95%）

教員：43（全体の70%）

（参考）昨年度 保護者：51%、生徒：89%、教員：71%

○比較分析の方法

A・B を合計した数／回答数……「肯定率」とする。

前年度のデータと比較することで、学校運営に対する評価を分析検討する。

(1)保護者アンケートについて

肯定率の平均 81.3(前年比 3.7%減)

筆答 1年9 2年13 3年8 計30件

肯定率平均は前年度と比べ3.7%の減少であった。

肯定率が90%以上だったものは、「枚方高校は他の学校にない特色のある教育活動に取り組んでいる。」「保護者用 classroom」はよく役立っている。」「枚方高校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である。」「枚方高校では子どもに関する個人情報を守られている。」「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」の5項目であった。

一方で、「生徒会活動は活発であると子どもから聞いている。」の項目については50.5%と肯定率が低く、生徒会活動の活性化が課題である。

また、アンケートの回答率に関しては、34%と低く、昨年度と比して大幅な減少となった。理由として、昨年度は Google Classroom と合わせて行っていたプリントでの連絡を廃止し、今年

度は Google Classroom のみでの連絡としたことが考えられる。来年度以降周知の方法等を工夫して、高めていくことが必要である。

(2) 生徒アンケートについて

肯定率の平均 86.4%(前年比 2.2%増)

筆答 1年19 2年18 3年16 計53件

「人権について学ぶ機会がある。」「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の2項目においては肯定率が95%以上、肯定率が最も増加したものは、「学校は1人1台端末を効果的に活用している」94.3%(5.0%増)であった。

一方で、「枚方高校はボランティア活動が活発である。」の項目については、68.4%(0.2%減)と最も肯定率が低かった。

肯定率の高いものについては維持し、低いものについては向上に努めたい。

(3) 教職員アンケートについて

肯定率の平均 77.5%(前年比 2.3%減)

筆答 10件

肯定率が最も高かったものは、「コンピュータやICT 機器が授業で活用されている。」(100%)であった。また、「各教科において、教材の精選・工夫を行っている。」「教員は授業の指導法について、工夫・改善に努めている。」「個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている。」の3項目においても、95.3%と高い結果であった。

一方、「学校として、読書指導に取り組んでいる。」(44.2%)「校則が、生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかについて、話し合う機会がある。」(58.1%)の項目が依然低い肯定率ではあるが、昨年度(それぞれ40.5% 42.9%)から上昇(3.7% 15.3%)は見られた。次年度も、さらなる取組みが必要と考えられる。

(4) アンケート全般について

昨年度より Google フォームでのアンケートを実施しており、集計の効率化が図れるようになった一方、個人が特定されない形で集計しているため、未提出者に回答を催促することが難しい。来年度は、保護者の回答率を上げることが課題である。

アンケートの結果については、各分掌で話し合う機会を設けているが、今後は分掌を超えて課題について話し合う機会が必要になってくると考えられる。特に、保護者・生徒・教員すべてにおいて肯定率が低いテーマについては、改善に向けての取組みを早急に進めていきたい。

以上